

さがみね 三ヶ峯

その2

ここでは三ヶ峯の
いにしへの窯のこと、
深紅のバラのこと、
そして農業試験場と
配水場を紹介します。

三ヶ峯第3号窯

飛鳥時代の遺跡

「ほむぎのナユ」

長久手は、古墳時代から鎌倉時代にかけて東海地方最大の窯業生産地だった「猿投窯」に含まれ、飛鳥時代は「須恵器」を朝廷へ税として納められていたと考えられています。それは奈良県明日香村で「瓮五十戸」（ほとぎのさと）と刻まれた壺が出土した後、長久手の丁子田（ちようしだ）窯と市ヶ洞窯からも同じ刻銘の須恵器が出土したためです。「五十戸」は「サト」と読み、「ほとぎ」は集落の名前です。



階段の上に3号窯が

平安時代から

鎌倉時代へ

三ヶ峯3号窯は平安時代の
もので、状態が良好なために

長久手市指定文化財となっています。窯の構造は丘陵斜面に築かれたトンネル状の半地下式の窯で、山茶碗の破片などが見つかりました。鎌倉時代のものでは三ヶ峯第1号窯や第7号窯が確認されています。

場所は芸大を入つてすぐ左、池沿いの道を行くと窯に向かう急な階段が現われます。

なお「瓮五十戸」と刻銘された出土品は市ヶ洞共生ステーションに、猿投窯跡の出土品は「愛知県陶磁美術館」に常設展示してあります。

参考・引用 ●長久手の窯跡をたどる
（三ヶ峯第7号窯発掘調査 ●ほとぎのさと長久手 問い合わせ ●長久手市役所 生涯学習課。



3号窯のまわりは柵で囲まれている

バラの栽培

長久手で50年

近藤バラ園

愛知県産のバラの出荷量は全国一位。でも長久手にバラ園があることを知っている人は少ないのでは。近藤さんは結婚を機にお義父さんが経営していたバラ園を継ぎ、創業から数えると50年になるそうです。

このバラ園は「栽培」ですから普段は花が咲いていません。およそ2〜3分咲きで出荷します。バラは水耕栽培で、農業用エアコンなどを導入して環境を管理していますが、2万8千株あるバラの、虫と病気の対処

は人の手で行わなければならずとても手間がかかります。昨年、安城市で開かれた「あいち花フェスタ」の「フラワーコンテスト」で近藤さんが出品した「サムライ08」という品種のバラが愛知県事賞を受賞しました。この花は美しい深紅の切りバラで人気が高く、多くの花屋さんが扱っています。



4カ所ある
ビニールハウス



つぼみの中に咲いている花も

長久手の農業の 理解と発展のために

愛知県 農業総合試験場

三ヶ峯にあるのは試験場の「本場」。ほかにも県内に、山間農業試験場、水田利用研究室、常緑果樹研究室、東三河農業研究室があります。

また、毎年「農総試公開デー」が開催され、生産物や加工品の販売、研究施設見学やワークショップ、コラボ企画や園芸相談などが行われます。残念なことに今年は、豚コレラ発生のため一般の人の立ち入りが禁止されており、イベントも中止が決定しています。

三ヶ峯配水場

水が届くまでの道のりは「ダム→取水口→浄水場→配水場→各家庭」。名古屋商科大学の近くに、長久手市民に水を提供するための配水場があります。



こうの向道が続く
に見える
タンクが青い

豊かな自然に恵まれ、調和を保ちながら静かに息づく三ヶ峯は魅力的で、またいつか訪ねたいと思いました。（二村記）